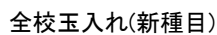
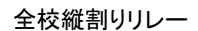
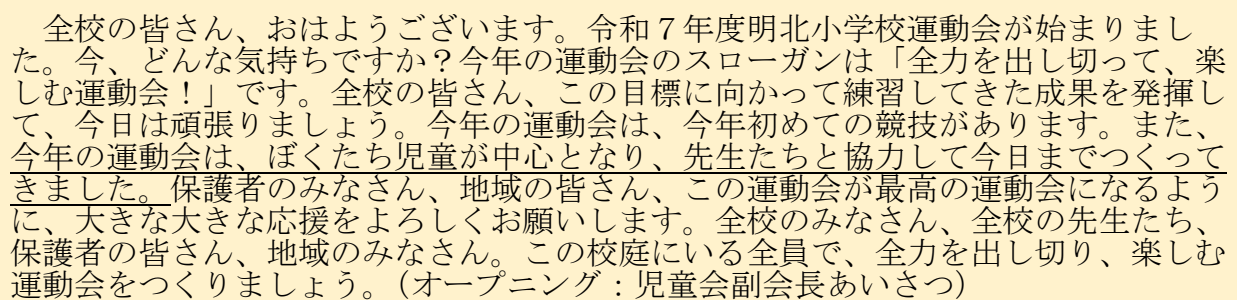




TOCO-TON 指導主事

10月18日(土)

[illegible]

先生方に支えられながら、自分たちがやりたい運動会を、自分たちの手で創り上げ、見事にやり遂げました。

思いを大事にしていくと・・・

明日はいよいよ小学校生活最後の運動会です。今年の運動会は、企画の段階から6年生の子どもたちの思いを大事にしてもらいながら、みんなで作ってしてきました。今日に至るまでに、子どもたちはいろいろなことを感じていたと思います。

その中の一つに「自分たちでつくっていくことの大変さ」がありました。昨年までは先生たち中心で行われていた「運動会係活動」を子どもたち中心にしてみました。これまでの児童会活動の経験から、進行計画を作成し、係活動を進めていくことに抵抗はなかったものの、まったく前例がなく初めてのことであったので、「やりたい」気持ちはあっても、いろいろと分からない中でやっていくことは大変でした。しかも、「全校リレー」や「組体操」、初めて行う「全校玉入れ」などの種目においても、6年生が中心となって計画・実行し、「台風の目」については5年生が中心となってやってきたものの、やはり6年生の手厚いサポートが必要でした。はじめは良かったのですが、体育の時間が増え始めると、子どもたちに余裕がなくなってきたのが、よくわかりました。そこで、子どもたちに聞いてみると「けっこう大変・・・」との返答。それと同時に「先生たちって、大変なんだね」という声がありました。今まで当たり前に参加してきた「運動会」。しかし、それが出来上がるまでにはいろいろな動きがあったのだ、ということに気づいた子どもたちです。この気づきは、この先も時々思い出してほしいと思いました。何かの行事ができる、ということは、そこに至るまでにたくさんの人のいろいろな働きがあることを感じながら参加するのと、それを感じずに参加するのとでは、参加の仕方や、思いにも違いが出てくると思います。

さて、少し大変さが滲み出ていた子どもたちなので「大変だったら、先生たちがやるからいいよ」と言うと「いや、そうでもない」「ここまできたら、最後まで自分たちでやりたい」と言う子どもたち。この言葉を聞いた時、子どもたちの6年生としてのプライド、内に秘める強さを感じました。

また、組体操においては、「かっこいい組体操にしたい!」という子どもたちの思いで練習が進んでいきました。最初は技を覚えてやってみるのが精一杯だった子どもたち。しかし、1時間1時間と練習を重ねていくうちに、だいぶ形になってきました。すると「かっこよさ」を追求する子どもたちは、そろえることを突き詰め始めました。顔の向き・立ち位置・服装・動き・技の完成度……。しかし、演技をしている子どもたちは自分たちの姿が見えません。そこで、5年の先生が練習の様子を撮影してくれて、それを見たり、私が全体を見て感じたこと（指先にまで意識がいくと、もっとキレイに見える、待つ時も動かない人は、かっこよく見えるなど）を伝えたりしました。すると、大人からの「ああしなさい、こうしなさい」という指示や命令は一度もないのに、いろんなことが改善され、徐々にそろってきました。子どもたちそれぞれが、自分のこととして「かっこよさ」を追求し、自分の目で確認し、感じることで、そこに納得感が生まれ、自分たちの力でレベルアップしていく、ということを学ばせてもらいました。

そして今週は、悪天候のために外での練習がなかなかできませんでした。さて、体育館での練習で子どもたちは何をするのかな？と思っていると、個人練習が始まりました。自分が苦手な1人技を何度も練習したり、2～5人技など声をかけ合って最終確認したり、友だちに見てもらって修正したり……。気づけば、5年も6年もなく、組体操をつくる仲間として和気あいあいと、楽しそうに練習している子どもたちがそこにいました。ある意味休み時間のような雰囲気です。そうやって楽しく練習していると、ものすごく俊敏に移動し、技をきめる子たちが出てきました。しかも、その動きがぴったりとそろっている!みんなにその姿を見てもらい、「みんなもやってみようよ!」と投げかけ、やってみました。すると・・・できる!

～ 中略 ～

運動会ギリギリで、また一段階レベルを上げた子どもたちに、本当に感動しました。

子どもたちの思いを大事にしていくと・・・子どもたちがもつ強さを知ることができ、子どもたちは、こちらが想像する以上の力で、自分たちでレベルアップしていく、ということを学びました。